



地域資源を生かした中山間地域の活性化策を学ぶ生徒たち＝浜松市天竜区の浜松湖北高佐久間分校

# 地域資源で活性化策

浜松湖北高  
佐久間分校 6次産業 仕組み学ぶ

浜松市天竜区佐久間町の県立浜松湖北高佐久間分校は25日、静岡文化芸術大文化政策学科の船戸修一教授を講師に招いた地域学の授業を行った。同分校の地域総合類型の2年生6人が、地域資源を生かした中山間地の活性化策に理解を深めた。テーマは「農業の6次産業化」。船戸教授は生産者が加工や流通・販売まで手がける6次産業の仕組みを解説した。山間地で人口わずか725人の高知県馬路村では、農協職員が主要農作物のユズを用いたジュースやポン酢などの加工品を考案、販売し、地域をユズの村としてブランド化したことを紹介。知恵や工夫だけで佐久間町も農業の6次産業化で成功できる可能性があることを示した。地域学は同校が導入している独自の授業。生徒が地域課題に向き合う機会を設け、将来の町の発展に貢献できる人材の育成を図る。(水窪支局・塩谷将広)